

小學作文五百題

T1A1

11

Y 64

明治二十九年九月再刻

青

熊

清

校

閱

熊

編

輯

第

頭書

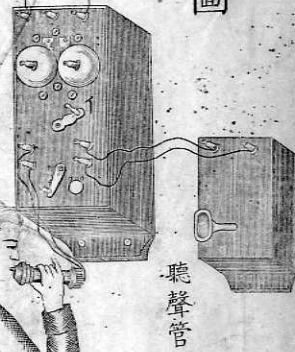
類語

小學作文五百題

板權免許

同盟舎出版

傳話機之圖 第一圖



聽聲管

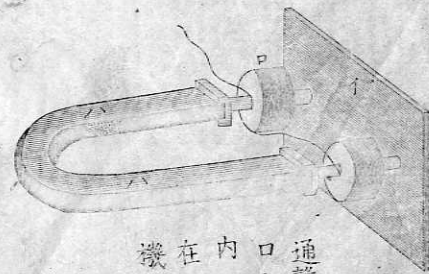
往古文字ノ發明アリテヨリ意
 ヲ寸箋ニ書シテ千里外ノ人ニ
 送り坐シテ談話ニ代ヘ或ハ千
 歳ノ事歴シ後傳ハ是實ニ
 文字ノ効アリ然レモ是ノ脚夫船車ヲ以テ送ラザル可ラ
 近世電信機ヲ發明シテヨリ千里一瞬ヨク信ヲ送り
 昨日西洋ノ事變ハ今日東京ノ新聞紙ニ上ス是實ニ電信ノ

効ニテ文字ノ用モ亦大ニ顯ル

電信機ノ圖解ハ五百題第二編ニアリ然レ氏人智日ニ開ケ其靈妙人ノ耳目ヲ驚カス者茲ニ止ラズ兩年前又傳話機ヲ發明シテ人ノ言語音聲ヲ直チニ數千里ニ達セシムルニ至ル理學ノ蘊奧入智ノ不可思議ナル豈驚歎ニ堪ヘザラン哉

夫音聲ノ人耳ニ聽ユルハ音響彼ニ發スレテ逐次ニ空氣ヲ顫振盪搖シ來テ耳底ニ在ル鼓膜ト云フ薄キ皮ヲ衝敲スル故ナリ其音聲ノ空氣ヲ傳ヒ來ルノ證據ハ雷鳴或ハ大砲ヲ發スル片障子ノ響キ破ルヲアルヲ以テ知ル可シ此傳話機モ音聲ノ鼓膜ヲ衝敲シテ其聲ヲ聽カシムルト同理ニシテ音聲鍍板ヲ衝突シ鍍板振動シテ以テ音調ヲ為スモノナリ

第二圖



通聲口之內ニ在ル機

英國ノ博士ベル氏ハ米國ボストン府ニ到リ父ト俱ニ頗ル啞子ノ教育ニ心ヲ用ヒ多クノ啞子ヲシテ常人ノ如ク談話スルヲ得セシメタリ(ベル氏曾テ曰ク啞子ヲシテ談話スルヲ得バ又必ズ鍍ヲシテ話サシムベシト遂ニ此發明ヲナセリト)

此機モ亦一樣ナラズト雖モ大略第一番ノ如ク

通聲口ト聽聲管トアリ即チ談話セントスル片ハ太口ヲ以テ通聲口ニ當テ聲ヲ發スレバ其聲

直ニ第二番ニナル鍍板ニ觸レテ響ヲ起ス(他ヨ

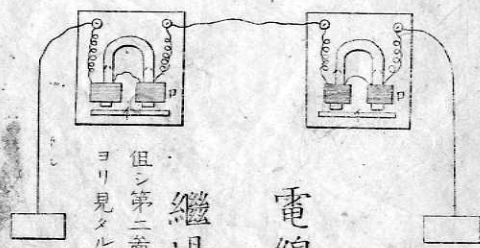
ル聲モ此鍍板ニ觸レテ響ヲ起ス)ナル軟鍍或ハ磁石鍍ノ

棒ハ其ニナル鍍板ノ響ヲ受テ震動シ(口ナル銅

線ヲ卷キタル者乃チ電氣ヲ發生シ之ト相連絡

スル處ニ他機ニ感動ヲ與ヘ一動一震銅線ヲ傳フテ遂ニ隔地ニ達シ自在ニ音聲ヲ傳フ此機ノ改良進步ハ殊ニ速ニシテ近日又大ニ發明ヲ加ヘ或

第三圖

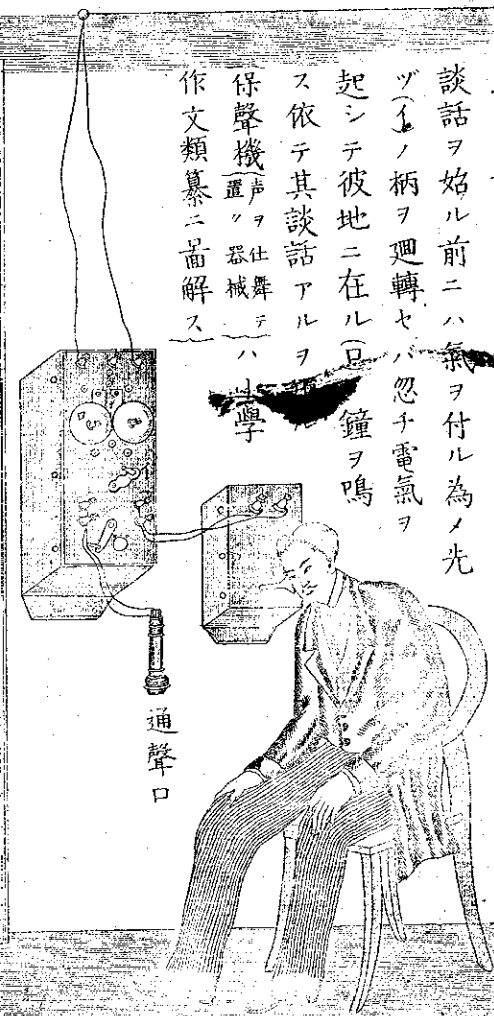


電線ノ

繼場

但シ第二番ヲ横ヨリ見タル番

ハ爰ノ音樂ヲ彼地ニ傳フル者アリ或ハ聽聲管ニ耳ヲ接ス
 ルヲナク隔地ヨリ來ル音聲ノ明亮ニ一室ニ聽ユル事ニ至
 レリト是ハ第三番ノ如キ電線ノ繼場數箇逐次ニ電氣ヲ發
 生スル故ナルベシ
 談話ヲ始ル前ニハ氣ヲ付ル為ノ先
 ツ(イ)ノ柄ヲ廻轉セバ忽チ電氣ヲ
 起シテ彼地ニ在ル(ロ)鐘ヲ鳴
 ス依テ其談話アルヲ
 保聲機聲ヲ仕舞テハ
 置ク器械ニハ
 作文類纂ニ當解ス



例言

公私内外ヲ問ハス男女貴賤ヲ論ヒ入日用缺ク
 可ラサル者ハ算術書記書翰ノ往答トリ故ニ小
 學校ニ在テモ亦勉テ之ヲ教フ然レモ其書往々
 雅尚ニ過ラ却テ俗家ノ日用ニ乏シ是レ詩ヲ作
 ルヨリ寧ロ田ヲ作レノ朝ヲ招クニ至レリ余獨
 郷校ニ在テ實地授業ノ際大ニ之ヲ患ヒ各校
 ノ教員ニ謀リ日用ノ文題文例ヲ集記スルクト
 千餘ニ至ル令聊暇ヲ得タルヲ以テ其緊要ナル
 モノ五百題ヲ抜キ少シク校訂シテ梓ニ災ス因

ヨリ大人君子ノ用ニ供スルニ非ス唯童蒙文ヲ
 作り習フノ一例一助ト為スノミ
 書牘ハ獨リ皇國ノミナラズ萬國トモ雅俗尊卑
 ノ別ニ由テ其文語ヲ異ニスルノ風習アリ且學
 校等ニ在テハ同題ト雖モ其學力ニ由テ固ヨリ
 其語氣ヲ同クスヘカラス故ニ頭書ニ二三ノ類
 語ヲ掲テ以テ其替文ニ便ス

明治十一年初春

編者誌

頭書 類語 小學作文五百題目録

- | | |
|--------------|----------------|
| 一 入校ヲ知ラセル文 | 二 入校後同道ヲ頼ム文 |
| 三 友人ノ入學ヲ賀スル文 | 四 女學校へ案内ヲ頼ム文 |
| 五 遊歩ヲ催ス文 | 六 風ヲ送ル文 |
| 七 試験日ヲ問合スル文 | 八 書物借ニ遣ス文 |
| 九 牛肉ヲ配分スル文 | 十 仕事始ヲ祝スル文 |
| 十一 梅枝ヲ贈ル文 | 十二 頼ミテ事ヲ問合スル文 |
| 十三 牌子遊ニ友ヲ招ク文 | 十四 不參ヲ告ル文 |
| 十五 學校ノ隆盛ヲ賀ス文 | 十六 久敷逢ハサル人ニ送ル文 |
| 十七 公園ノ友ヲ誘フ文 | 十八 鞠子ヲ送ル文 |

十九 昇級ヲ賀スル文
 二十 兼題ヲ贈ル文
 廿一 爲真ヲ送ル文
 廿二 友人ニ算書ヲ借ル文
 廿三 書物ヲ送ル文
 廿四 到來物ヲ分配スル文
 廿五 香魚ヲ贈リシ人ニ謝ス
 廿六 用事 人ヲ招ク文
 廿七 温泉ニ行く人ニ贈スル文
 廿八 讀水會ニ友ヲ招ク文
 廿九 衣服ノ裁縫ヲ頼ム文
 三十 小飲ニ友ヲ招ク文
 卅一 梅見ニ友ヲ誘フ文
 卅二 讀才新誌ヲ借ニ遣ス文
 卅三 詩歌ヲ返ス文
 卅四 轉宅ヲ知ラセル文
 卅五 中越ヒミヲ通ヒシ答
 卅六 新茶ヲ贈ル文
 卅七 借置タル書ヲ取ニ遣ス文
 卅八 作文添削ヲ請フ文

三十九 新聞ノ遞送ヲ頼ム文
 四十 物品ヲ贈ル 謝ス文
 四十一 安否ヲ父母ニ知ラセル文
 四十二 摘草ニ友ヲ誘フ文
 四十三 書物ヲ返却スル文
 四十四 横濱ハ同道ヲ頼ム
 四十五 雇人ヲ頼ミ遣ス文
 四十六 書物 直段ヲ問フ文
 四十七 新聞ヲ換フ諮ル文
 四十八 同族友人ニ送ル文
 四十九 約束ヒシ品ヲ送ル文
 五十 文會ヲ催ス文
 五十一 仕官ヲ賀スル文
 五十二 書物遞送ヲ書林ニ頼ム文
 五十三 劇場約束ヲ斷ル文
 五十四 桃見 誘フ文
 五十五 事ヲ問合スル文
 五十六 待合ヲ申遣ス文
 五十七 幼稚園ノ景況ニ報告ス
 五十八 病氣ヲ通知スル文

全 菽豆ヲ送ル文
 全 買置シ品ヲ取ニ遣ス文
 全 見本ヲ取ニ遣ル文
 全 招カレシ翌日送ル文
 全 誅文ノ品催促ノ文
 全 梅枝ヲ贈ラレシニ謝ス
 全 上海新聞ヲ送ル文
 全 孝明天皇祭日ニ詩文會ヲ催ス文
 全 菊見誘ハル文
 全 漢文内國史略ヲ借ル文
 全 試驗後友與フル文
 全 即時人ヲ招ク文
 全 有問ヲ預リシ返辭
 全 歸省ニ告ル文
 全 及第ヲ父母ニ知ラセル文
 全 留守ニ來ル人ニ送ル文
 全 茶會ニ友ヲ招ク文
 全 遠國ノ人ニ送ル文
 全 途中逢シ人ニ送ル文
 全 麥酒ヲ贈ル文

全 外國會ニ客ヲ招ク文
 全 時計ヲ誂ヘル文
 全 滞在シ家ニ遣ス文
 全 菊花ヲ贈ル文
 全 質問スル時日ヲ問フ文
 全 入梅中人ニ贈ル文
 全 着京後父母ニ送ル文
 全 雨具ヲ返ス文
 全 大風見舞ノ文
 全 冬夜客ヲ招ク文
 全 日利ヲ頼ム文
 全 雨中魚ヲ餽ル文
 全 醫者ヲ頼ム文
 全 納涼ヲ約スル文
 全 潮干ノ漁魚ヲ贈ル文
 全 大雷見舞ノ文
 全 博覽會同伴ヲ約スル文
 全 繁農ニ人ヲ傭ノ文
 全 材木ヲ注文スル文
 全 梅雨中招待ヲ断ル文

百暑中氷ヲ餽ル文

借物ヲ返ス

新築落成ニ付人ヲ招ク文

大 水 7 見 舞 7 文

會後作文、添刪ヲ乞フ文

① 追善ヲ執行ス

皇
牡丹花
贈
文

島梅庭 二 小宴ヲ開ク文

中秋月見會ヲ確ス又ニ交ス

東華府催文

●遠足ヲ促ス文

皇朝一狩ノ催入文

島他國ヨリ歸リ人ニ送ル文

(翼) 洋學入門ノ周旋ヲ乞文

(夏) 移徙ヲ賀スル文

① 考着ヲ祝スル文

（墨）遠方一友二寄人此文

疔瘡見舞文

眞 蒸氣船出帆問合セノ返事

眞
丹見
誘
一
答

- 皇 新年乾海苔ヲ贈ル文
- 皇 乾海苔ヲ贈ラレシニ謝ス
- 皇 金ヲ借ル文
- 皇 金ヲ借ル文ニ答フ
- 皇 福壽草ヲ贈ル文
- 皇 福壽草ノ贈投ニ謝ス
- 皇 王子ハ同行ヲ勸ムル文
- 皇 王子ハ同行ヲ勸ルヲ断ル文
- 皇 楓狩ノ文
- 皇 楓狩ノ文ニ答フ
- 皇 西京博覽會同行ヲ促ス文
- 皇 西京博覽會同行ニ答フ文

書中目錄終

類書

類語 小學作文五百題

再版 第一

語ヲ爰類
ニ掲ク
宜シク
撰ビ用
フベシ

○小學校

入塾入門

昨日過日

屈濟願濟

①入學ヲ知ラセル文

安井乙熊輯
青木輔清校

今日の学校を
わたり

尔来以後

同伴誘ひ

相願頼入

被下度

○今日ハ

先日過日

入校相濟

大慶珍重

②入校後同道ヲ頼ム文

今日入校後同道ヲ頼ム

日ヨリ同道ヲ頼ム

③友人ハ學ヲ賀スル文

昨日入校後同道ヲ頼ム

おめでとう同道ヲ頼ム

明日以後

御導き

御誘ひ

願上候

○後刻退

校後散歩

思召相同

御問合

④女學校へ案内ヲ頼ム文

明日曜日より女學校へ

案内内下さし度有

⑤遊歩ヲ催ス文

只今より運動能たる

遊歩ハ如何何あはれ

球風到

来異風之

風付進上

御覽ニ入

試驗期

日幾日頃

確定極

訓問相伺

六 風ヲ送ル文

此風めづき西洋形
月目かけ

七 試験日ヲ問合スル文

定期試験ハ何日とね
さるありやかひなり

書籍圖画

御無心を

暫時暫く

借用拜見

○兵庫の

牝牛到来

貰ひ些少

輕微配呈

ハ 書物ヲ借ニ遣ス文

女學裁縫教授書四
五日の百お借致す

九 牛肉ヲ配分スル文

新鮮牛肉九考のせ
百お配分す

御息女

令嬢裁縫

御警古

恐悦欣然

梅花満

開花少

綻手折の

梅御座

① 仕事始ヲ祝スル文

所娘子さる由仕り始

...

② 梅枝ヲ贈ル文

庭あり梅花ある枝

...

過日御依

頼一條

件如何様

子相同

○夕刻今

霄軍語牌

子福引光

来御侍受

③ 頼ニシ事ヲ問合スル文

先日由形み置...

...

④ 牌子遊ニ友ヲ招ク文

午後より牌子遊...

...

痛無據要

因不來ヲ告ル文

用御断申

上、衆上致

昨夜、腹痛甚敷
今日、不來

兼、

⑤ 學校ノ隆盛ヲ賀ス文

追々御

盛欣幸感

佩満悦

御地祇學校ノ盛、
いふ、
原

久々疎

速其後ハ

打絶如何

御幕御安

否伺度

○開暇花

園御誘申

上御伴ハ

④ 久敷逢リル人ニ送ル文

此程中ハ、
此

子個々

⑤ 公園ハ友ヲ誘フ文

山
上

同伴致、友

西洋鞠

子到來賞

ひ慰み

達進上致

登級上

達平日勉

勵格外出

精誠心御

大 鞠子ヲ送ル文

横濱よりテム鞠子送り

越日有以玩進上致

七 昇級ヲ賀スル文

は程の試路より及第

なれは近日迄の勉強

と感服仕片

主衣服ノ裁縫ヲ頼ム文

は祐二枚お紙す法

の通り裁縫教交片

世 兼題ヲ贈ル文

月並詩歌並題五葉以

綿入單

羽織袴

此衣服合

せ御出来

御裁縫

紀事文

題廻達片

送請暇落

掌

○宴會酒

宴應飯料

理今夕来

駕枉車相

待希望

○戰地場

已中上方蒙御幸

○小飲友人ヲ招ク文

蘇酒一杯献度也

次男半後云飲民也来れ

○寫真ヲ送ル文

大坂傳車場長崎

真只今不

用留置展

覽不苦候

○卧龍梅

寒梅半開

満開花盛

近日御同

道御同伴

寫真圖二系差上げ有後

○山覽の成良

○梅見ニ友ヲ誘フ文

浦田村梅花も盛

中一日山候後友人

○友人ニ算書ヲ借ル文

再京人

同

和算書

類御所持

只今不用

暫時借用

借願度

學雜

説書借專

使願候

上等算科に用ひる算

術題は持合せしむるに

一廻経緯儀に及る

只類の計に借遣ふ文

作文階梯暫行

河原抄、續本新徳五

六、系図儀、教文、主、教、得、ハ、ト

皇武史

畧、録、呈、呈

上、素、讀、會

讀御採用

本懐喜悅

満足

名作詩

作、名、吟、美

書物ヲ送ル文

小学他文類纂一部進

上、新、以、科、程、に、用、ひ

ト、さ、し、ハ、大、度、に、及、る

詩歌ヲ返ス文

玉他の詩歌、謀、美、多、ク

鹿上出来

相窺見

受鮮魚鱖

魚到着返

来輕山進

送分進仕

拙宅移

轉移宅引

おん仕

① 到来物ヲ分配スル文

玉館より生鯉到來仕

石上よりなりぬ此配分致

② 轉宅ヲ知ルヒル文

私に今何郡還何所

越為知案

内御吹聴

報上

○年魚金

鯉珍物惠

贈澤山頂

戴拜味賞

味

何番也 轉宅いた

元般を此報知

③ 香魚ヲ餽リ人ニ謝ス

香魚たぐさ

難有

④ 申越セシヲ通セシ答

○通達傳

言委細承

諾萬事得

心承知

○内識有

之申兼候

得共通行之

餘東路の祈

中越ふさき片一候申

圓せりまふ曲承知の趣は

○用事一人ヲ招ク文

少くは因候し度美有る者

は是方なるを為渡出

の程事新良

○手製之

新茶不出

来此少送

進榮入是

祈

○箱根湯

治熱海入

湯發程發

○新茶ヲ贈ル文

後園植付有る茶此程新

く物家一箱万由美味多中友

○温泉ニ行ク人ニ贈スル文

承ふさき湯。温泉

出水。中程少ある。以

習 別程

儀 捧呈 献

覽 進呈

○ 過刻 無

約 并借致

置 願く 使

者 御 渡

○ 進 々 後

野の臨迄進及

○ 借置タル書ヲ取ニ遣ス文

學校より約束する中書

四級三級より書題写何支

いふより書一冊直接有

○ 讀本會ヲ友ニ告グ文

日 試験ニ

近 寄 輪 讀

復 習 御 来

講 待 受 希

望

○ 作文 稿

案 拙 稿 呈

務 之

追々長夜を成陣に試經

前々自今晩より讀本會に

及ぶる必しも来東に於て

○ 作文添削ヲ請フ文

拙作數篇世より有る

面例をのらぬ果味し

間弁削刑

正刪定を

乞ふ

○貴社新

聞出版次

第、速送傳

速代價為

誤番相添

山添削刑交片

④新聞ノ速送ヲ頼ム文

貴社出版の何新書欲号

より私方より速送を承度

代價を添はるる様

④約束セシ品ヲ送ル文

○先日御

頼單物地

到着致し

御目懸

見本とて

○珍物贈

投結構の

品贈り給

貴社より約束の産摩編
二反被地よりお送り有
元教を山増へて

④物品ヲ贈ルニ謝ス文

今朝程、好物、京山玉情
群、お褒め、お風味

早速拜

味賞味御

厚禮迫

○作文會

集會來會

開隙寸暇

見臨枉顧

奉持候

夏夜為故少礼ノ上長

望 文會ヲ催ス文

来日曜日午後ノ校友

六七人打寄至芝居ヲ催ス

有少茶暇ニ由リ此席ヲ設ス

望 安否ヲ父母ニ知ラセル文

○豚兒愚

子日夜精

勵要慮放

念思召被

或度候

○拜命登

進奉命大

慶大悦欣

私ニお智ニモ日ニ付

事ニ勉強致シ居有

此由故神ニ云

器 仕官ヲ賀スル文

今段内務省ニ出仕

此由故神ニ云

躍目出度

○暖雨之

後野遊の

青草摘艸

近日の内

遊歩野遊

○出版

新書捌發

○摘草ニ友ヲ誘フ丈

雨ニ日の雨あつても陽回

暖はるる條経生いふて

一日の因遊り友に

○書籍通送ヲ書林へ頼ム丈

老石を遺愛におくる

市代金封

入使は為

持即時仰

渡

○必需の

書、義、惠

借之征討

史、幸、便、返

小学諸禮文例五冊也

速送は不度代候ハス様

を以て此送し

○書物ヲ返却スル丈

以て大切の書物、永く

お借ありうへに候を

壁込納版

収受取本

願

○明日迄

居同伴可

我契約之

無折無

人違限成

以て此迄都仕方置

掌のり中

○劇場約束ヲ断ル文

明後日新富座へ依

収めくゝ約束の事

らるゝ書客は紙を跡に

志此度小

限り本意

小のり中

参上

○先日往

日相談致

一商用

罷越度

器横濱へ同道ヲ頼ハ文

日外小暇しう横濱

お茶一鉢未だけり

依く一箇の因是雅

再入

御寮内御

同誘頼入

○萬桑間

盛報知有

之即日

宅同志同

伴出掛

立時

○下男下

女小使車

夫頼頼把

入御依頼

至急御尋

御周旋

○先刺先

程并見承

道行公女親上

平桃見誘丈

越谷左桃花満る

彼地より誠一法あり

西国より名山西国より

明教より山崎より

⑤雇人ヲ頼に遣ふ丈

中崎より名雇ひに友相

應より名有し其より名連

世依頼友

⑥筆店問合ふ丈

学校より名仁山名

何

買取申度

此段御尋

相伺

○貴社出

版價伺聞

郵便何程

至急御答

店より求められし

買求え度なる書物

書物 直段ヲ問合スル文

此種新版の掌中玉篇

定候何程と存じや也

回報致し

○面談有

之後程推

参御待受

け差支無

之様願上

○毎度常

々御遣

拜見借賈

待合ヲ申遣ス文

毎度要領之候御用

之の御用は直段と存じ

新聞互換ヲ諮ル文

毎度御用新刊直段

有難之候御用は直段

配達郵送
 以後替覽
 互に便利
 思召如何
 相伺候
 ○小兒遊
 自然開智

孫入兩新園
 年々其由
 名存何之良

(美) 幼稚園ノ景況ヲ報ズル文

幼稚園々
 知兒の持ひる
 知兒を再々小

日々入園
 次第盛
 盛ニ成行
 實效顯
 ○苗代麥
 蔭田植相
 濟雨都合
 能葉々生

小入其基
 百五十
 實大ニ成中良

(幸) 田植後人ニ送ル文

日頃此を
 順生い
 尚以候風

立犬風無

之豐作相

祈申候

○老人老

母風邪起

臥為差病

症為念通

知為御知

の愛ある根行居

○病氣ヲ通知スル文

祖父より昨夜より下痢の
志す打臥床枕等の様子
あり毎に二寸ばかり

○菽豆ヲ送ル文

○開懸の

地、値付、意

外繁茂先

日川取出

来聊進上

少々差上

○常々出

精御蔭

明年新開の荒畑菽
豆耐育り安存あり矣り
よく庄程収納致し候
也笑々々々々々々々

○試験後文、與ル文

祇候者、世因様記勉強

版下五子見

以意外昇

級賞詞

預同様珍

重安心仕

○先則詔

置何々幾

品直上此

諸御渡

仕下今日の試後之御

及第之文大考之御

⑤ 買置ニ品ヲ取ニ遣ス文

先程も衣を求るに

品物は衣を渡すに

⑤ 即時人ヲ招ク文

山形に衣を渡すに

品物は衣を渡すに

⑤ 見本ヲ取リニ遣ル文

此程形を衣を渡すに

書物用衣を渡すに

とて衣を渡すに

○急用出

来直様御

出一同相

待居候

○御發行

書籍而三

種程御送

送

○御無沙汰御無音
 打絶訪問
 尋問恩問
 難有過分
 不日参館
 厚禮面謝
 可申上

⑤ 仔問ニ預リシ返辭

是より久く申張を
 打過る所柄態に
 祈り忝なり就て
 未だ未だ謝のり申上

⑥ 招カレシ翌日送ル丈

○晴首過
 暫駐走歸
 宅送預
 前後忘却
 御家内様
 宜敷此段
 御禮

⑦ 歸省ヲ告ル丈

昨來、種々御長慮お成
 帰省し申上命し
 希難有事謝儀尚一統
 祈り互に安んじ申上

○不日歸近、内省致し、百被地へ

國河秋御

用無御隔

意留守宅

何分御心

付可被下候

○曾て詔置

落成候得

御逸送

お應へし御用もなす由を

お出さくして御心留守中

何分御心留守中なす由を

註文ノ品催促ノ文

孟冬月又校書物出書

お出さくして御心留守中

○捧端指

候昨日試

御御安慮

御消意可

被成候

御喜ひ

初櫻桃

梅枝ヲ贈テ三謝ス

及第ヲ父母ニ知ラセル文

御書をもつて上座へ

校書定期試験に及第

第二級及第仕度

お出さくして御心留守中

花珍教范

澤山御贈

與座中興

添賞既

少只御

禮の御面

謝再拜

○佳日晴

昔光来之

慶折節外

出残念至

極不日拜

問相伺申

○過日註

文教育新

聞其他數

雪市の極范教范

直範中挿み

二清無を伴 慶觀ふ妙

先も此様

(非) 留守ニ来タル人ニ送ル文

時ハ此様

他出好顔

河

筋

(主) 上海新聞ヲ送ル文

先

外 倫頓毎週新聞

種萬國新

聞漸く相届

即時郵送

緩々御覧

○私園之

新茶佳茗

手製の茶

意外香氣

未茶茶友

閑逸清閑

御來臨是

祈

○紀元節

學友米會

作文詩會

相企差合

今。お逢。た。る。と。上。

後。と。お。看。讀。の。お。

⑤ 茶會ニ友ヲ招ケ文

私園の茶葉摘みたり

試製し愛ある風味に

く就る午後より一献就

皮山茶味を佳くしと書臨

待。た。れ。ば。

⑤ 孝明天皇祭日ニ詩文會ヲ催ス文

明日。孝。明。天。皇。祭。日。

本校友古七名。私宅に招き

詩文會を催し。皮山茶を

毎々此の光陰仰

⑤ 遠國ノ人ニ送ル文

幸使^{さいし}は一紙^{いっし}に上^{うへ}に

平^{へい}復^{ふく}ハ公^{こう}に繁^{はん}務^むニ注^{ちゅう}力^{りき}レ

意外^{いがい}の甘^{かん}と香^{かう}の寛^{かん}

妙^{めう}新^{しん}の味^み度^ど佳^か便^{べん}より

付用無之

御臨席被

下度

○良便

托^{たく}一^{いっ}輪^{りん}

寸指内外

多用許容

用捨寢食

如何様子

伺度近状

如何

○浅草奥

山黄菊例

年二倍

天氣快晴

觀行致度

此の如くお家

⑤ 菊見誘引ノ文
有石^{ありいし}と某居士^{あるしやうし}

染井園^{せんえん}の坂^{さか}邊^への道^{みち}邊^へ

群^{ぐん}の手^て際^{さかい}に來^きたり

幸^{さい}ひ今^{いま}もそ氣^き自^{みづか}に覺^さ

仕^し度^どの如^{ごと}く後^{のち}刻^{こく}

御手透

從是參上

御誘引

○先刻對

面御依頼

の事件、付

衆教尋問

明日参上

少儀の事

(美) 途中逢ヒシ人ニ送ル文

過刻途中ニ接眉

首以托一の事

お尋ね交五日止ニ必

仕方の中

より入る

(主) 漢文内國史略ヲ借ル文

追し長夜

強仕友

之友何年

内國史略

御相談可

致趣候

○夜學致

度見合度

个所有之

候付御大

切之征討

史略替時

惠借相叶

大幸此事

候

○飛脚船

葡萄

酒到来

○御覽

八神

原お集りし雅有

(夫) 麥酒ヲ贈ル文

只今新貯て麦酒藤大
仕上り風味し程少
存先一鑑進し口
叶いりし程送進

差

○天王祭

追々近寄

御遊覧

御子様方

御遊覧

今ヨリ申上

○以郵便

(其) 祇園會ニ客ヲ招ク文

祇園會客招き
能く見物あり泊り
し來りて遊び

(中) 時計ヲ誂ル文

以使人能く時計

龍頭卷掛

時計上品

相撰直段

書相添ハ

代金相記

為持御遣

○滞在中央

全側押所を箇原確子

アングル二箇精水改元

張九書有出持系下友

代僕義八良時お拂下友

全滞在シ家ニ謝ス文

遍中ハ何自原懐

御世話

預人船中

無異安着

此段放懐

御禮の

○御根分

之菊満開

小成難有身謝道中

甘茶茶陽名月少故金

市友先を少従上友

全菊花ヲ贈ル文

昨年来心を盡

通ふ以以謝々咲桜中

粒相勝為

御慰呈覽

致一倘伴

之便路賜

光臨御枉

駕

○月並每

月輪讀講

讀書中難

解片聰期

日相伺度

不解之所

何時參上

不苦哉

○梅森贊

此二草を其白を勝と

片月を大覽六月高木

難難難原原原原

市の初より未待そ

⑤ 質問スル時日ノ問ノ文

奉る十月を例月日にお史

今陰より日より安書中

不審より原より質問ハ

集より不審の然れ日限

程家より

⑥ 入梅中人に贈ル文

梅の花を難く見た地味

陶敷無聊

濁酒一樽

鬱氣之散

柳都合如

何奉伺候

以上

寸素上

東便松上

乘波濤平

穩無異安

着着京即

時直御報

書外次便

惶恐不備

追白副啓

同壯健

因之美酒一甌在携之

推系之清酒在露

後背之散一交在衣

世之やわ同

⑤ 著京後父母之安否ヲ報ス文

短楮おは仕月報幾日流

船家海上滞おく今曉

横濱、着直汽車、東

京、河伯文、孫、子、行、

ふ、散、出、報、出、上、膝、

後、便、着、湯、下、上、靴、

二、伸、高、伸、便、孫、子、行、

○以片書

以郵便俄

急雨追れ

雨衣恩借

無事帰宅

以使完壁

落手春候

御取納御

仕舞被下

度

○昨夜意

外之暴風

烈風貴宅

無御別条

直ニ見舞

少々相損

○雨具ヲ返ス文

以片書上、時々雨

急雨追ひ、雨衣切の傘を

借し、貴宅を濡らすに碍

なく、既に、お物配達

所にお托し、お直御し、

お孝極し、お福のいふ

○大風見舞ノ文

昨日、近頃、お大風

所、破損、少々、お家

に、お損、お破損、お

お損、お破損、お

修儀相如

彼是延引

御見舞

○當夜信

友知己相

集果會茶

と煎し清

と盡し

日没より

御曳杖御

憤席御出

○此二品八

意外下直

真偽相分

ら目利

相願候御

再下

垣根少くお例連立候は

主と友連立てて門を編み

○冬、夜客ヲ招ク文

今宵校友三四名来候は

名丁城と百燈と圓み茶を

喫し由儀候し夜は長候も

是より其時より先陰未

○目利ヲ頼ム文

此一軸松外庵候より正真

なりわ承し友替より名

若しより其時より先陰未

上真偽の鑑定なり

三

三

見定

○雨脚連

日閑居寂

莫鮮魚

藍柳料理

被下御笑

味給荒留

是折本望

④雨中魚ヲ贈ル文

宿雨未晴、晴るに因りて此
魚ヲ授け、
雨中止、砂の一脚あり、
ハハ懐く玉に在る

⑤醫者ヲ頼ム文

○愚父若

僕風邪傷

風頭痛眩

昏宿疾再

發起居難

渡御見辨

御惠臨御

同診

再下

老母より此程より冒寒

の事味合ひし、お臥し交

々、お氣を吐、煩悶を交

老母より、心痛仕来

大儀、診察来、お氣を

⑥納涼ヲ約スル文

卷之二

三十三

○炎暑如

燒困苦堪

兼晚景水

邊避暑納

涼同步散

步希慶候

○初て汐干

氣獲之興

相備一海

面平穩珍

敦手獵犬

蛤一籃細

魚取交進

呈呈覽

○晴昔大

方纔き暑き烈な凌る

夕陽より上堅ふ池迄

まゝ納涼き遊歩波交り

足跡より江田傳仰け

（聖）潮干ノ漁魚ヲ贈ル文

今朝俄に潮干將と思ひ

まち品川沖に燃るる

棹一舟獵仕り交ふ外

穫物より蛤蛸を籠

め笑ふふと進上仕り

（雷）大雷見舞ノ文

昨夜大雷雨の音を

雷強雨迅
雷驚入避
雷柱神坐
候付意思
如何鬱蒸
の氣聊相
散拜問御
伺御見舞

やうな事をいふ事入る淨光母
孫の常の道いのかき付
以別來年よりやう孫子
お伺ふ先より兄あは
なすにぞ

●博覽會同伴ヲ約スル文

●今回府
下縣下博
物會展覽
會實學研
究之器械
羅列展覽
智悟と関
約束同観

今般者縣に於て博覽會
以開きお成ゆ物有るを
他々々々を肝要におし
て其の報覽を致すに
以て各場より速に同席
致し度いふ約束とす

約諾

田植の

期何方も

繁忙中申

兼病人有

之兩三日

御助力仰

御台知何

繁農工人ヲ備テ文

於複商板仕家新福家文

病家之打部店様子

手回り重困却成り甚し迷

惑るも此頃中事柄難爰に

於石河是道より希成

○書齊新

築小屋普

請上藏破

損要用の

木口別紙

之通上品

相撰御見

計ひ舩積

材木ヲ注文スル文

此度店屋向所度事

就き入用ニ材木を

紙仕様書一通様合

持方由々味文より見

様ひし上は様へ希成

被下代價

引替着荷

之上相拂

○雨脚連

再行人

恠連雨

續續幸街

終預即時

拜趨采薪

の憂起外

罷在殘情

おろ貴意

背快後趨

謝可申盡

候

○既契約

代料も後込

拂ひ

○梅雨中招待ヲ斷ル文

梅雨連。招待洵な

店お梅招き

急上り仕

かゝる頭痛甚

おまゝ有る

お詫招き

おお眉前謝

○展覧會ヲ通スル文

孫お山約束

拙宅茅屋
古物會書
箱會愛藏
の奇物御
携ひ御出
席知己御
請諸君へ
通達

十五。私宅に於て展覧會
恒々有る様々古器珍
物も亦集り出で居
るに尤お諸君へ別段
一通書し百千振込に
百暑中氷ヲ送ル文

○暑氣例
年一倍
殆ど如焼炎
熱氷塊到
来些少分
進驅暑洗
熱少く暑
を避愛幸

炎暑甚敷り夏初居
仕健飲喜々然と只今
函館名産の氷便船
以て送り候有き少配
後片消暑の一助も成
る一六存く至る一

此事候

○例年此

餘程暖氣

意外大雪

寒威相倍

際裁敷

詠吟詩作

相同度

① 初雪見舞、文

今年も餘程暖氣を凌
ぎ、變り候の大寒より
寒氣一層烈きもの初
雪より候なり。此の如
く、今も同度先より候

御訊問

星片楮候

○先日御

秘藏之品

品恩借厚

志首尾克

相濟奉多

謝候返却

問、勿、不候

直借物ヲ返ス文

至るも、此大切の金庫風
車、燭臺、花瓶等、御借
り、此後、尚、美濃、都、合
手、交、程、有、候、見、込、納

返璧跡
謝不日
登謝

○昨年
御約束之

當年も不

出来し付

少々計刪

呈上仕

(一)色々御盡

力被下候

書齊大成

付自祝之

宴御枉駕

之程外客

上ノ有ハ花菖蒲ノ花
花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

新築落成ニ付人ヲ招ク丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

花菖蒲ノ花ヲ贈ル丈

尊客無之

惠然枉顧

幸甚々々

○初て松

魚都下

澤山可有

之珍

難得

隔心し客も年々万々

夏 初鯉ヲ送ル文

只今出入し魚店より初鯉

持ふより文由好まき

定めて珍し

解しあふ相お初し一字を

小献覧差

上

○連日大

雨洪水突

入防無術

貴宅ハ川

邊故無御

難儀推察

冠し金由出入し客も年々万々

夏 大水ヲ見舞フ文

此頃大雨より突我所水

浸入所同あり難儀仕

殊に貴宅ハ川

邊故無御

下、去、貴、家

無、異、御、手

傳、可、申、御

尋、問、迄、御

見、舞、迄

○蕎、麥、粉

到、來、致、し

蕎、麥、切、温

能、振、舞、差

上、夕、刺、後

刺、來、臨、御

出、被、下、度

○曩、者、時

昔、文、會、相

催、折、節、御

海、下、ノ、日、記

冬、月、也、且、在、座、し、此

用、も、且、六、御、自、度、先、に、

見、舞、迄、形、は、お、も、し、

⑤ 蕎、麥、ヲ、饗、應、ス、ル、文

此、時、に、蕎、麥、粉、多、く、

食、ふ、者、も、多、く、所、謂、

信、濃、の、新、蕎、麥、及、秋、夜

お、も、た、ま、も、多、く、所、謂、

此、時、に、蕎、麥、粉、多、く、

⑥ 會、後、作、文、ノ、添、削、ヲ、乞、フ、文

昨、日、も、會、合、し、文、生、諸

君、等、用、心、を、以、陳、序

海、下、ノ、日、記

海、下、ノ、日、記

海、下、ノ、日、記

多忙出席
被下一統
遺憾殘情
作文塊翰
則正伏而
祈斧正を
乞御校正
被下

多忙来一回御無事
尚。若生く此文を
以て入る方少く
節。そも。法則。常々
神。ひ。う。そ。

夏雪見ニ友ヲ招ク也

大雪雨
日萬山
色小樓高
所遠眺絶
景不勝冷
視若と煎
尊契と埃
冒雪来レ

夜前、追ひの大雪
書齋手続を
遠近眺望玉柳
雪見も亦入る
意。道。ひ。り。真。雪。

御米車相

候

○曾祖追

薦故其先

生年忌法

是臨席揮

毫席上節

會拜請如

此候

○兼而御

咄新聞縱

覽所御開

店地理宜

敷不日盛

大期

光東車相

○追善ヲ執行ノ末

年月歳。初宅に於て

先師某追悼書由

今も此處に尤も徳先生

も此處に此席に於て

此處に此席に於て

○商店ノ開キ人ニ送ル文

此處に此席に於て

此處に此席に於て

此處に此席に於て

此處に此席に於て

再下ノ...

可換通日

參上拜賀

可申上以

上再拜

膏雨催

花草色萎

葉性來變

花前地

種一際勝

走一跡實

覽聊御慰

二一首給

有のむ大

慶之至

客來有

之忽然來

本石北山探取新入身

弟上原信て一漢月新景

皇牡丹花ヲ贈ル文

首夏候新花種着之

物冲まゝ牡丹を愛し

毎年候新花若心付て

今年候年勝と云

思也自賛新相候

血見の候書に勝候

秋の情を花に云々

皇器具ヲ借ニ遣ル文

國元への祝状を五人

客賀席
閑碁と常
惠申上魚
候御秘愛
之品杜て
恩借此者
御渡用後
直返納

公系投花仕り憂差あり
様其と當惑仕り追次
世心なるも茶碗膳初
少くお借致さるるも
~~~~~  
波に相成り也

○日催喧  
和天氣和  
暖小庭の  
梅花香を  
發花下の  
小亭雅友  
と會梅花  
賦隔意

⑤梅庭小宴ヲ開ク文  
追々暖氣あ成庭あり  
梅を半玉と名づけ  
後園の茅屋小宴を開き  
梅花を詠む企てあり  
金沢守五郎 小笠原

あゝ是非

同杖渴望

々々御同

伴被下度

○船中安

静海陸無

恙歸宅不

在中御角

新公外初に決意あり  
をふむかふは譲る所あり

皇 歸旅ヲ知ラセル文

道中其滞り多し

は相あひし

配りし所千ふふ謝り

御世話様

陸地旅行

荷物無之

招風煙草

送進拜呈

不日参館

彼地の様

様御物語

此度は月一旅行

な。土産もなし

名古屋角を對面

後二ふふは

系上彼地系

物語のふふ後



司中上

満天無

雲星會相

催天文と

談、理學

と講、御

構不申、様

會、陣

暮より御

貴臨、御来

臨之程、祈

候、

○過日、

其様、於て、

拜眉之砌、

御談判之

（裏）中秋月見會ヲ催ス文

今宵月見の最中、

お月見の會催ふ所

風候も宜く、

築の南様も月を考へて

望み、

御ハ如待居、

ふ、

（裏）他席ニ逢テ後ニ送ル文

先、

先、

し、

再、

卷、

天、

月、

一儀早速

熟議粗行

届候右御

承領課業

休隙御曳

杖被下所

用の不悉

○秋雨連

張り日新園投書致

置有左様の如き事

程の内少暇もより事

仰先之必要用と云ふ

○草符ヲ催ス丈

打候も難敷陶成

日雨

山生候

より主人

承り一瓢

を携山狩

亦一入御

同行願度

能く進み程迄お集り

山の麓生い垣の由被

地より漸く右方快晴

一帯を携り麓迄お集

山麓生い垣の由被

同遊候に此も伺ふ

候

○不日御

出京御

用中、巡

候得共、東

京案内と

中書籍序

御求、郵便

○出京人ニ書籍買入ヲ頼ム文

明物も出京の類多用

のふと思入るは、西南征討

史略云、新外難、徳頼七

八冊、購求、通運、金程

の若出、市、友、利、七、高、師

御差出

被下、帝都

之實景可

相伺、今より

相待

○風光可

人旅行此

時あり

佛系、初、東系、景況  
可、お伺、今より、果

○遠足ヲ促ス文

追、日、東、暖、信、信、陳

通、心、心、心、心、心

再、京、人、上、四、日、題

卷、二、

平、一、月、

書

江の島行

社友兩人

近日發程

御同意

賤得着御

同被被成

候思召打

合可中候

○以同狀

申上小區

會議御開

設衆議相

催某を請

聘御入社

思召否御

如筆御順

再下

以ハ如何ニ成ルベシ

枝友二名ノ旨書呈上

候ニ遊リニ成ル

如何ニ成ルハ如何ニ

叶ハルハ速ニ決ス

●演舌會催ノ趣文

以通章ニテ今迄ノ趣會

開ニ成ルハ此就ニ集

先生ニ於テ演説會

候ニ成ルハ同志ニ

加テ中夜者カ等ニ

急ニ順應ノ趣ニ

達可被下候

○佃水澤

洲崎潮

男女群集

御子供衆

大潮回

御同遊致

船相摩

御開暇の

日被仰聞

度伺度

○野生近

頃譯文罷

在上梓被

促漸く為

雨衣大

〔皇〕潮干狩ヲ催ス文

以程ハ日如お候き平河

沖の潮干狩群集致片

既乾きも里魚釣進潮時

の百番田の儀供及尤希箇

其の器具は是が持参て候

百田郡倉一日中干候

と成り度候

〔皇〕譯書、校合ヲ頼ム文

此程寸暇を以佛國

史を以抄譯する事

所二冊を成也併抄又

至三司具

卷拙作終

笑拙稿呈

覽公務之

間斧正之

祈候

○松中平

穗海陸安

康歸館歸

宅重疊

悅清談并

聽各地形

轉草間疲

是以使梓

問不日趨

悅可承候

○英名雷

此抱腹抱也且得之

采石山校園中安地

順其產之於今

○其他國歸リ人ニ送ル文

市道中望滿以秋

少海系之現現之好速

弟老現現之在何一發

其以之在現現之在

此收之在現現之在

此在之在現現之在

○誹諧ヲ催ス文

其以之在現現之在

名歌人先

醒旅行の

序茅舎滞

留被製候

今夜一會

即吟相催

同社御伴

同校

為山字道這回不稱

田母の月寄遊覧の行路

と春月平尾一泊は夜月

月々し今如運連併

夜々々遠くより連中

少橋引の原庵 新太

餘ハ在面

来曲お眉のうしは月

○豚児殿

息家弟漢

學為致候

處傍洋學

追々成長

修業為仕

夏 洋學入門ノ周旋ヲ請フ文

五才儀是也小學校

初學為校日來より成

年々成長後洋學

勉める仕度何事先生

度學則嚴

數漢洋費

教御世話

被下度御

擇于次第

即刻相傳

國申候

廣應足

下蒙命遠

行長遠城

煩御不在

中嚴相

伺可申日

本切前聊

表驛儀獻

皇笑止張

再求入皇由夏

書一司

細引とて学科教

則る若美校の周旋

より振舞ふ事道より

次第あつた同下より上

運出張を命せられし人を送り交

承り且つて山々麻ひを

料の山々山の越え方

山々山の中を

有る山の中を

より山の中を

山々山の中を

山々山の中を



中愛護

○普請出

來營錄成

就御座敷

開南山之

至請侍費

應速下并

壹八私元

復移徒ヲ賀ス文

御新築落成ノ御賀

越々悦ノ所目ハ振

建ノ外中ハ後席ニ在

来ノ偶ハ用ニ来ルニ皆

日ノ長ハ貴山ノ野ノ下ノ粗酒

劇佳洲

壹捧呈献

進餘八面

謝

○芳名伺

居徒ハ不曉

應罷在候

處幸某紹

一橋所ハ福徳ノ縁ニ

是ノ縁友ハ又ハ納メリノ再縁

○見 未夕逢ハイル人ニ贈ル文

縁ハ中ノ名ハ承ル及ヒ得

未ノ好顔モ得ル日ハ慕

ノ居所ハ変ハレ校友

願寸寸是

介某氏

依頼片

諸敬見寸

笑尔来指

我愛結

蒙希望情

願仕候

令下愛

某由鄰家轉宅致書

幸因人而托請忘を

保一書を自今何

身中致書を自今何

皇袴著ヲ祝スル文

伊子喜孫袴着の段成

幸大賀月替々好意

致書交主外ハ成長

孫ハ伶俐の氣候行来

新母愛となし随分極

有る出精魚二尾佳儀

と致書進上致書少記

郎元服加

冠嘉慶拜

賀成人被

成東生發

明聰明英

智後日榮

名期て可

待鯉魚一

片... 二...

尾慶嘉之

驗荒存是

析

○昨夜参

領意外馳

走酩酊前

後忘却不

禮承少解

怒懷中遺

失萬一貴

宅無之候

也御禮愛

一寸相伺

候御口吟

○風便奉

啓倍御勉

多うう大幸にふる

皇落物ヲ尋ヌル文

昨晚にふる大に泥碑

家後忘却紅定て朱家の

我有るるるるるるるる

相ふるるるるるるるる

社明にふるるるるるる

例のふるるるるるるる

をのう同ふるるるるる

四口居新

皇遠方ノ友ニ寄ル文

寸楮致すは金由勤

片... 二... 三...

勵、拊、喜、雀、  
躍、野、生、今、  
同、定、期、試、  
驗、優、等、甲、  
斜、面、目、と、  
施、猶、無、間、  
斷、苦、學、研、  
究、無、音、疎、

學、欣、喜、に、然、る、先、般、  
師、範、學、校、に、於、て、大、試、験、の、  
最、高、考、一、等、賞、與、を、受、  
け、實、を、學、生、に、授、け、る、生、前、の、  
面、目、を、新、に、觀、望、す、る、事、が、  
本、主、意、以、外、に、餘、閑、

訪、下、御、面、  
倒、別、封、御、  
届、續、情、次、  
便、可、申、上、  
候、多、用、中、  
走、毫、委、曲、  
後、便、  
○一、翰、拜、

海、内、是、所、に、保、此、  
一、封、其、君、に、通、送、奉、後、  
燈、石、走、筆、除、後、便、  
系、後、に、一、函、片、

（嘉）手跡入門ヲ請フ文

一、紙、呈、上、候、片、陳、を、取、見、

呈賤息思  
弟御教育  
願辱御許  
容我儘一  
杯魯鈍頑  
童嚴警教  
示無御遠  
御呵噴

出門之義某氏を以てお  
願ふ所速に承引奉承  
重謝は是より控へる所  
何よりお難へる所書  
法主勿論主他進退等  
貴方より教鞭有る上

○御賢息  
郎君頃者  
御庖瘡の  
より承り  
御種痘も  
相濟真事  
小聊のほ

○御庖瘡見舞文  
御堂より採る瘡痘は感  
じたまはれ仕舞ふ再様を  
承り満ちて又々然と  
お致し候ふ所存に健子  
必宜様までとすお角

再下人  
奉  
奉

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

御見舞の

版  
下  
三  
王  
是  
天  
之  
同  
聖  
會

无横濱坂

鋪荷物者

明日中

驛遞局迄

御差出

即時畧答

歸返事

貴者

拔鋪之荷物  
三月迄  
此水九教  
以今萬鴨  
牡丹花威

集鴨牡丹見誘文

井目黒邊

牡丹今真

盛一日雅

遊思召如

何只看花

の辨當携

候心得候

以上

今今日曜  
散策一瓢  
清興花遊  
遊也何尤  
柄委修  
後様

○如來命

如貴論燕

一覽致

度存居偶

御誘引是

非御僥倖

是則

止同行

同遊所外

○復新之

慶賀申叙

候生海

御年始之

印逆拜呈

進上致候

○牡丹見二誘二答

此美余以今集勝也

生通名園及正始未

寸隙之隙之遺憾也

折柄之隙引能百

之柄之隙引能百

後新之少候工致

○新年乾海苔ヲ贈ル

改年以同慶候

不蘇紅友人ノ乾海苔

為來致萬由歲王治

進上致候



頓首

○加貴論

革曆之祥

慶珍物之

生海苔御

惠送實

好下物賞

奉復

○乾海苔ヲ贈ラレシニ謝ス

仰、如、改唐、同慶、

海苔、板大森、

既、好物の海苔、

授、下程、

物、お、

○過日大

畧申上候

會社設立

付、折節

少々不足

困却御融

通相成惠

借仕返償

○金ヲ借ル文

豫、少、

弥買、

金、

金、

金、

金、

版作文

期限證券

貴谷奉祈

○貴翰拜

聞御注文

之品到来

1付不俟

用立被仰

開會無

徳めおきつて後、若くは致し

皇 金ヲ借ル文ニ答フ

奉給指通れ、以て田地

買入、自今、各相違、致振

手、到は、然、其、元、六

廿、月、一、日、夕、刻、迄、調、査

之、時間

一、下、正、方、回、禮、書、込

お系、お系、お系、お系、お系

お系、お系、お系、お系、お系

皇 福壽草ヲ贈ル文

改、正、書、下、系、系、系、系

系、系、系、系、系、系、系、系

合セ可申候

盡力周旋

草復敬復

即答

○早春より

引續雨天

淋敷後園

内、系、系、系、系、系、系、系、系

版

植付置候

漸々半開

二株配呈

貴覽

○如来諭

連日幽鬱

龍在御丹

精之福壽

草御惠授

預齋氣

散萬謝期

登閣之時

候厚禮

○天氣和

暖膏雨催

花明日

雨作人

福壽草

柳

島 福壽州ノ贈授ニ謝ス

如仰

因

並投

美

先

先

臺 王予ノ同遊ヲ勸ムル文

天氣

神武天皇祭

休業道灌

山邊散步

製絲場

見致幸ひ

友人参

居候御同

行廻伺候

玉輪邊

讀飛鳥山

より王子

邊一御連

足不候陪

從被仰聞

候處折悪

敷要用下

殘情御断

休暇より王子死

鳥山邊と道邊一孝公抄紙

今秋傳より一孝公製紙場

一暇より致事死同傳一初月

（要）王子（同行ヲ斷ル文

玉愛由候然より王子死

一四同伴より王子死

紙場より王子死

一孝公某氏より王子死

一孝公市より王子死

一孝公上より王子死

一孝公下より王子死

速察萬縷

拜眉川中

謝候草復

○品川海

晏寺離の

川邊万樹

紅葉雅客

料集出碑

萬謝のしほりお度

楓狩ノ文

王子瀧江川、後東江家  
勝地、越承及も交る年  
もお楓狩の時、黄より成此  
以、此を、杖と曳き、傍と

と尋野遊

相企、一日

同遊、伏而

願候願望

罷在希望

○郊行柳

誘引被下

拜承致し

探る雅人も多らねども  
王氣は、第一、同杖漫遊  
只、友、笑、度、也

楓狩ノ文 答

滝江川、紅葉狩、誘引  
手、別、竹、回、所、の、風、来、遙

再作し、五日、月、日、

風景殊佳  
途中無聊  
臨流之才  
子と伴ひ  
歸路王子  
廚棟一酌  
奉曲舞同  
技之途中

海晏寺に勝りて振る  
枕 友人のこころ甚く其  
柳 忍ぶる雨に哀愁  
明 水田遊戯又  
王子 廻り一酌のそよ風  
中 水田遊戯又

商議

○以片楮

并問曾て

御約束之

西京行進

々暑日向

道中困苦

不日發程

○西京博覽會同伴ノ促ス文

才楮お呈陳も豫て西京約  
一玉、西京博覽會へ  
同行、義順、向島、相  
成、中、森、義、村  
近、森、義、村、向島、相

貴意如何

荷物も船

にて送り

旅中手輕

之積御都

合如何哉

御問合

○費墨披

都合少月、如也、不、先、

差、五、軍、万、お、成、丈、種、装、

ふ、仕、金、右、少、振、子、個、直、新、

の、如、く、さ、な、し、

○皇 西京博覽會同行、促、ス、答、文、

芳、書、お、補、就、も、西、京、以、

関坂地御

同道之義

仰之通り

暑中、お、難、

義幸閑暇

付、自、是、可、

申入之慶

御使、預、り、

同行の儀、お、差、遣、上、候、

趣、承、知、仕、度、お、難、い、事、

際、お、承、知、官、事、も、可、上、

所、お、差、遣、上、候、事、も、可、上、

所、御、儀、尤、お、見、物、も、

所、お、承、知、有、物、も、可、上、

別段手荷  
物々無之  
緩々旅行  
宿々見物  
萬事御指  
示を蒙り  
期日確定

旅行は必ずしも  
且初旅友何角  
旅は終るは終る  
面は終るは終る  
之を中へ入る

小學作文五百題第一終

版權免許明治十一年三月二十九日  
再版御届同 十二年九月十八日

編輯人 安井 乙熊

出版人 福田 榮造

東京芝區  
芝西應寺町二番地寄留  
東京日本橋區  
漢町二丁目十一番地



頭書 小學作文五百題第一

類 第二

同 第三

同 第四

同 以上五百章

同 續編 一二 合卷

同 三四 合卷

以上五百章

簡短 凡日用文百五十章

傳話機圖解入

四季贈答文電信 類在

請取諸証文電信 地圖解

祝辭紀事序成 類在

頭書作文紀事 類在

序做名定 尺牘之類

頭書作文字引

東京日本橋區  
橫山町二丁目十六番地

# 書籍問屋

內田彌兵衛

陸前仙臺 伊勢安右門 西京

上州前橋 黑崎長三郎 大坂

全 高寄 柴田 量平 全

野州宇都宮 田野辺忠平 全

全 朽木 武藤 清助 東京

越後高田 水田屋勝五郎 全

信州善光寺 小外屋喜太郎 全

下總坂町 高木直次郎 全

全 佐倉 堤 心平 全

薩摩鹿兒島 吉田孝平 全

藤井孫兵衛

柳原喜兵衛

松村九兵衛

吉岡 平助

北畠茂兵衛

稻田佐兵衛

山中市兵衛

山口藤兵衛

水野慶次郎

山中孝之助